

「With/Afterコロナ」の 時代に向けて

— コロナ禍でみえた“ゆたかな暮らし”の新しいすがた—

2020/12/13 (日) 10:00~/16:30~



第1部 「イベント」を中心に
宇都宮徹巻 (写真家・ノンフィクションライター)
… スタジアムからみえるもの
土谷 享 (現代アートユニットKOSUGEI-16)
… まつりとアートとスポーツと
本多克己 (NPO法人サロン2002 副理事長)
… U-18フットサルからみえるもの

第2部 「新しい日常」を中心に
田中理恵 (会社員 / 「リモート旅行部」共同主宰)
… 働き方の変化とリモート旅行の試み
春日大樹 (某日系総合電機メーカー 上海支社所属)
… 海外勤務で感じたこと
岸 卓巨 (A-GOALプロジェクト代表)
… 休み時間はアフリカに

主催 : 特定非営利活動法人サロン2002
日時 : 2020 (令和2) 年12月13日 (日)
第1部 : 10:00~12:00
第2部 : 16:30~18:30
懇親会 : 18:30~20:30
(オンライン)
各回15分前よりお入りいただけます。
会場 : オンライン (ZOOM)
参加費 : 無料

参加申込 : 右のQRコード、
または下記アドレスからご登録ください。
<https://salon20022012.peatix.com/>
事務局 : salon2002.info@gmail.com
(担当: 岸卓巨)



演者プロフィール

登壇者は全員、サロン2002のNPO会員またはネットワークメンバーです



◆宇都宮徹也 (写真家・ノンフィクションライター)

東京藝術大学大学院美術研究科修了後、TV制作会社勤務を経て、97年にベオグラードで「写真家宣言」。以後、国内外で「文化としてのフットボール」をカメラで切り取る活動を展開中。著書に『ダイナモ・フットボール』(みすず書房)、『股旅フットボール』(東邦出版)など。『フットボールの犬 欧羅巴1999-2009』(同)で第20回ミズノスポーツライター賞最優秀賞、『サッカーおくのはそ道』(カンゼン)で2016サッカー本大賞を受賞。近著『フットボール風土記』(カンゼン)。2016年より宇都宮徹也ウェブマガジン(WM)を配信。http://www.targma.jp/tetsumaga/

◆土谷 享 (現代アートユニットKOSUGEI-16)

2001年より土谷享と車田智志乃の美術家ユニットKOSUGEI-16として活動を開始。現在はこれまでの活動コンセプトを引継ぎ、土谷が代表として活動している。主な受賞歴「第11回岡本太郎現代芸術賞展」岡本太郎賞。主なアートプロジェクト 2016~19年「PLY MAKERS SENDAI」せんだいメディアアテーク art node project、2018年「MΩCHI SCRAMBLE」高知県立美術館 等。主な個展 2012年「THE PLAYMAKERS」Mac Birmingham (英国)等。主なグループ展 2010年「こどものにわ」東京都現代美術館 等。主な国際展 2005年「横浜トリエンナーレ」、2010年「あいちトリエンナーレ」、2019年「瀬戸内国際芸術祭」。



◆本多克己 (株式会社シックス/NPOサロン副理事長)

1999年に現役最年長サッカーライターの賀川浩と株式会社クラブハウス、2008年に株式会社シックスを設立。国内最大のフットサル大会「ホンダカップ」をはじめとしたサッカー、フットサル事業に取り組んでいる。神戸アスリートタウンクラブ理事長、オーキック理事長、一般社団法人日本フットサル施設連盟理事、元奈良女子大学非常勤講師。NPOサロン2002では、U-18フットサル、広報などを担当している。

◆田中理恵 (会社員/「リモート旅行部」共同主宰)

調査会社に勤務し、オフタイムは旅を楽しむ元ダイビングガイド。コロナ禍でオンライン会議三昧となったステイホーム期間中に、旅仲間がテレビ番組で「リモート世界旅行」のナビゲーターを務める姿を見て、5月から仲間たちとオンラインで観光地を楽しむ旅を始めた。最近のオンタイムは出社とリモートを併用しながら、様々な業種のコロナ禍の影響についてお聞きする日々。



◆春日大樹 (某日系総合電機メーカー 上海支社所属)

1991年生まれ、京都府出身、筑波大学人文学類、筑波大学大学院人文社会科学研究科修了。学部時代は筑波大学蹴球部(中塚理事長の後輩に当たります)に所属し、体育系学生に交じってサッカーに打ち込みつつ、専攻であるドイツ言語学を学ぶ。学部時代、大学院時代合わせて一年半ドイツに滞在し、現地アマチュアチームに所属しプレーしつつ、ドイツ語の研究に取り組む。2017年就職、1年目から海外営業部に勤務し、2019年より上海へ出向、現職に就く。20代にして居住国3か国目、コロナ下での海外生活について赤裸々にお話できればと思います

◆岸 卓巨 (「A-GOALプロジェクト」代表/NPOサロン事務局長)

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構で働くサラリーマン。元JICA海外協力隊ケニア隊員。新型コロナの影響を受け、準備を重ねてきた東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期が決まる中で、ケニアの貧困地域でサッカークラブを運営する知人からメッセージが入った。「コロナの影響で多くの住民が生活に困窮している」。5月16日にA-GOALプロジェクトを立ち上げ、アフリカ現地の地域スポーツクラブをハブに緊急支援活動を開始。ケニア・ナイジェリア・マラウイの3カ国で15のクラブと連携し、80名以上のプロジェクトメンバーとともに、7,000人以上に食糧や衛生用品を配布。9月末には支援金獲得を目的に24時間のオンラインイベントを開催し、オルンガ選手(柏レイソル)などアフリカ出身アスリートなど多数参加。活動は現在も継続中。今回のシンポジウムでは、「日常生活」の視点から怒涛の半年を振り返ります。



◆中塚義実 (筑波大学附属高校/NPOサロン理事長)

1987年の着任以来、同じ学校で保健体育科教諭・蹴球部顧問として高校生の指導に当たる。前身の「社・心グループ」時代からNPO法人化した現在に至るまで、サロン2002とともに歩みながら「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」に取り組む。筑波大学オリンピック教育プラットフォーム(CORE)運営委員、日本部活動学会理事、日本ヤタガラス協会副会長、全国高体連研究部活性化委員、東京都サッカー協会フットサル委員会ユース(2種・3種)部会長など。著書に『少年のためのサッカー入門』(長岡書店)、『日本のスポーツ界は暴力を克服できるか』(かもがわ書店)、『運動部活動の理論と実際』(大修館書店)など。今回は、第1部をU-18フットサルリーグチャンピオンズカップ開催の長野県千曲市から、第2部を職場近くの東京都文京区から進行する予定です。